



平成29年3月21日
京都市立桂坂小学校
校長 若松 美里

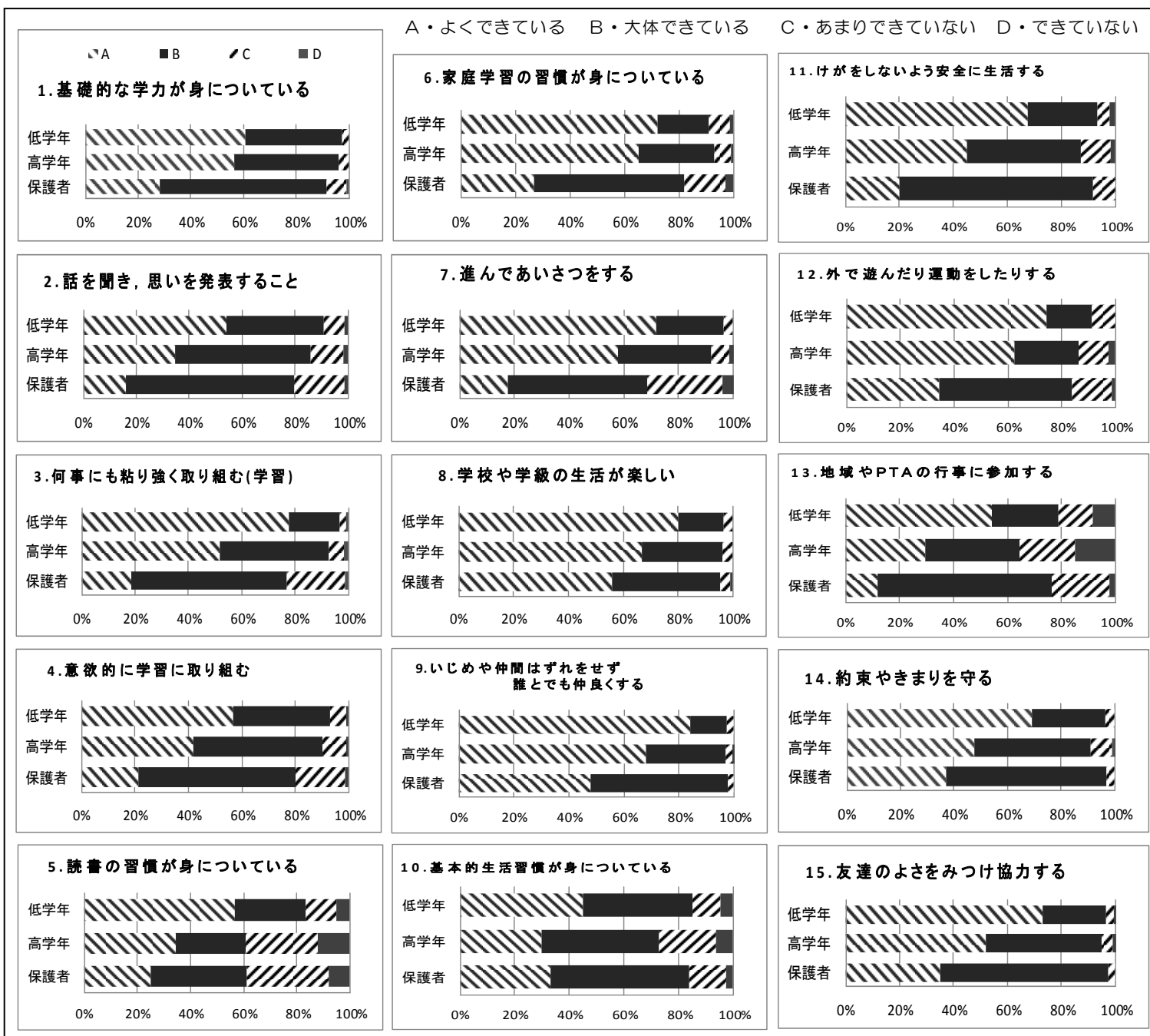
後期 特別号



Email:katsurazaka-s@edu.city.kyoto.jp

お忙しい中、学校評価のアンケートにご協力いただきありがとうございました。このアンケートは、子どもたちや保護者、地域の方々の一人一人の声を大切にすると共に、共通認識のもと連携して取組をすすめ、子どもたちの学校生活をよりよいものにすることを目指しています。

学校生活について(ふりかえり)アンケート結果 【後期】【児童・保護者アンケートより】



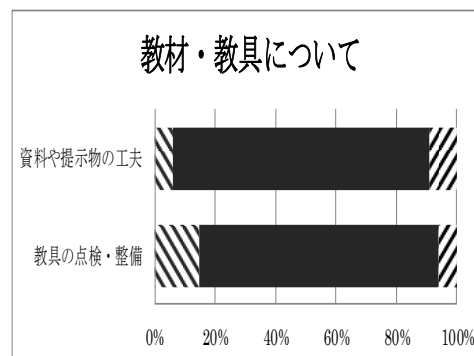
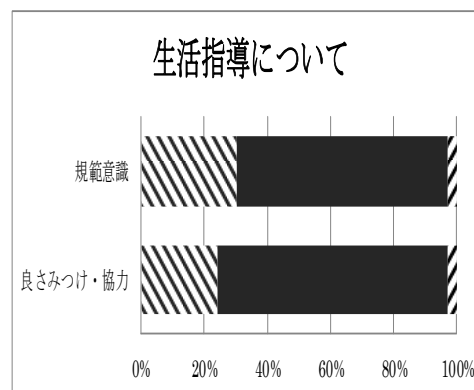
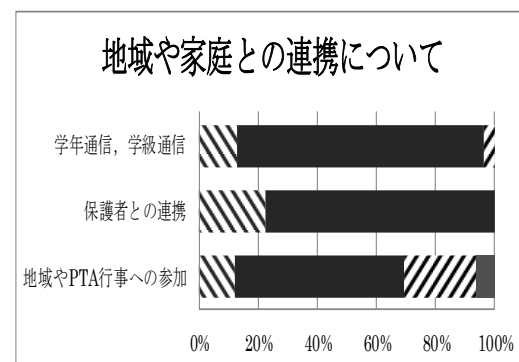
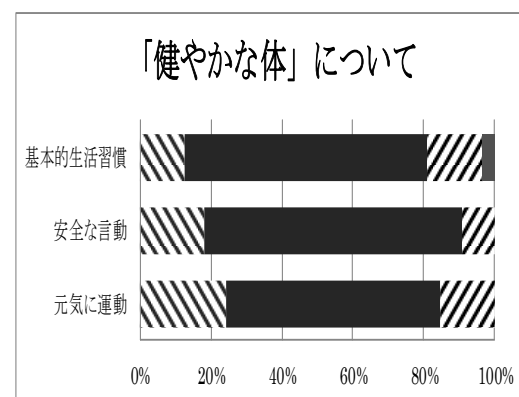
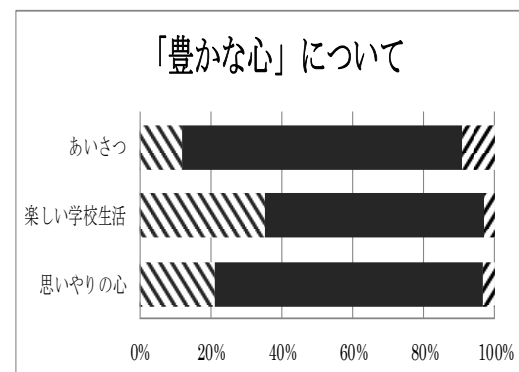
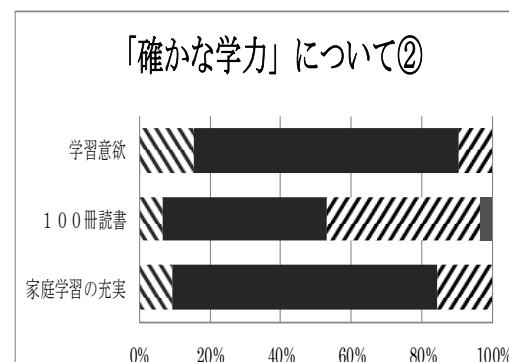
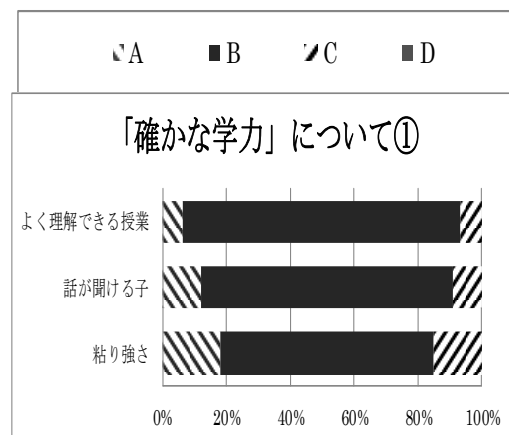
【児童・保護者アンケート結果の考察】

学習に関する項目では、前期同様「1. 基礎的な学力が身についている」について児童も保護者も一番高い評価が見られました。これは学習の初めに「めあて」をしっかり提示し、最後にきちんと「振り返り」を行うという授業の流れを全校で統一して授業を進めていることで、子どもたちが見通しを持って学習に取り組むことができた成果だと考えられます。「4. 意欲的に学習に取り組む」では低学年、高学年共に前期より高い評価が見られています。個々の学習意欲を高めるために、今後も一人一人の頑張りをしっかり評価し、すべての児童にとって「わかる授業・できる授業」となるように授業の充実を図っていききたいと思います。また「3. 何事にも粘り強く取り組む」では、全体的に少し評価が下がっています。これは各種調査(学力定着テスト、ジョイント・プレジョイントプログラム等)の結果において「書く力」や「文章問題を解く力」に課題が見られたことと関係していると思われます。今後、国語科を中心に「書く力」、算数科を中心に「文章問題を解く力」の向上に向けて全校で授業改善に取り組んでいききたいと思います。また「5. 読書の習慣が身についている」では評価は高いとは言えませんが、後期も図書委員会によるもみじ読書週間の取組や、PTAや地域の方から読み聞かせや朗読会、地域ボランティアによるブックトーク等で、本に関心を持ち進んで読書に取り組めるように働きかけてきました。今後も保護者や地域の方と連携しながら、読書に対する意欲を高める取組を進めていききたいと思います。

生活に関する項目では「7. 進んであいさつをする」の評価が毎回低く、前期の結果からも最重要課題であると考えて取り組んできましたが、結果として評価は変わりませんでした。児童は「朝の声かけ運動」の時などにあいさつをしていることを「できている」と評価しているのに対して、保護者の方は旗当番の時の児童の様子や普段の生活の中での様子を見て「できていない」と評価されています。子どもたちには様々な場面で「学校内だけでなく地域や保護者の方に対して気持ちのよいあいさつができるように」と呼びかけてきましたが、今回の自由記述にも同様のご意見が複数ありました。今まで以上に学校全体で声かけをしたりあいさつする意味やあいさつの仕方についても指導したりしていくとともに、家庭とも連携を図り、子どもたちが「いつでも」「どこでも」「誰にでも」気持ちのよいあいさつができるように指導していききたいと思います。「8. 学校や学級の生活が楽しい」や「9. いじめや仲間はすれをせず誰とでも仲良くする」についてはどの学年も温かい関係づくりを目指して学級経営に取り組んできた成果が見られています。「いいところみつけ」「みんな遊び」「係活動」等で友達との関わりを深めるとともに、道徳教育を柱とした時間や約束を守る等の規範意識を高めるための取組が、安心して楽しい学校生活を送ることにつながっていると思われます。今後も学年の発達段階に応じて、学習や活動内容を工夫して取り組んでいききたいと思います。

教職員アンケートより

A・よくできている B・大体できている
C・あまりできていない D・できていない



教職員は、保護者・児童のアンケート結果を受けて、自己の取組の成果と課題を考察・分析した上で自己評価アンケートを実施しました。児童・保護者アンケートにおいて課題としてあがってきた項目について、教職員も十分成果を上げられなかったと感じています。

まず、『確かな学力』では「粘り強さ」の項目で課題があげられました。学習内容の理解については一定の成果はあるものの、時間をかけてじっくり取り組む問題にやや課題があります。特に高学年になると文章を書くことや文章問題を解くことを苦手とする児童が見られるようになることに対して、国語科を中心に作文や感想文の書き方の指導を行ったり、算数科を中心に教科書以外の文章問題に取り組んだりして、課題解決に向けて取り組んでいきたいと思います。また「読書習慣」の項目では、高学年や保護者の評価が低いことに対して、まだまだ工夫した取組が必要であると考えます。朝読書の時間や授業の中で読書に取り組む様子については一定の評価はできていますが、日常生活の中で意欲的に読書に取り組むことに対しては十分ではありません。後期の読書週間の中で親子読書の取組を行いました。今後も家庭で読書に親しめるように親子読書週間を設定したり週末の家庭学習で読書に取り組んだりしていきたいです。

『豊かな心』の「あいさつ」については保護者の方や地域の方からご意見も頂いていて、学級や学校全体であいさつをする意味をしっかりと教え、気持ちのよいあいさつの仕方について評価の改善が見られなかったことを深く受け止めていきたいです。今までのあいさつ運動の取組に加え、あいさつの基盤となる生活意欲の向上を目指す取組をしたり、大人（教職員・保護者・地域）があいさつの見本を示したりしながら、来年度結果につながるような取組を考えていきたいです。また「楽しい学校生活」で児童は高い評価をしています。少数でも「楽しくない」と思う児童がいることを真摯に受け止め、原因を追究し、すべての児童が楽しく学校に通うことができるように全教職員で取り組んでいきたいです。

3月9日（木）第3回学校運営協議会（PKF：プロジェクト・カザラッカ・フォレスト）より後期学校評価「保護者・児童・教職員アンケート」の結果を受けて、学校運営協議会（PKF）で話し合いを行いました。

毎回一番の課題として挙げられる「あいさつ」の項目が、今回も評価が低かったことについて様々なご意見をいただきました。まず学校運営協議会の方の評価を伺うと、「学校に来た時に子どもたちが元気にあいさつしてくれて楽しい気分になりました。」「近所の公園で遊んでいる子はしっかりあいさつしてくれる。」「すべての児童が出来ているわけではないけど、きちんとあいさつできる子はたくさんいます。」というご意見をいただきました。「あいさつ」について学校で取り組んできた成果が少なからず表れているようです。しかし、あいさつができない児童がいたり、あいさつしない場面があったりするのも事実です。そこで、今一度社会のマナーとして「どんな時に、誰にあいさつをする必要があるのか」を子どもたちにわかりやすく教えることが大事ではないかというアドバイスをいただきました。例えば①学校に来られるお客さん（家に来るお客さんと同じ）②知っている大人の方（親しみを込めて）③旗当番の保護者の

方や地域の方（登下校の安全を見守っていただいていた大変お世話になっている）というように、あいさつをするべき対象者とその意味を具体的に提示し、「あいさつキャンペーン」などの企画を行い、きちんとできたかチェックするのもいいのではないかと教えていただきました。

「基本的生活習慣」では就寝時刻が遅いことが話題になりました。高学年になると塾や習い事の関係で仕方ない部分もありますが、学校生活の基盤となる大切な事なので規則正しい生活リズムをきちんと定着できるように保護者の方と連携して取り組んでいく必要があるというご意見をいただきました。またケータイ電話やスマートフォンの使用が生活リズムに影響していないかという心配の声もあり、今後学校でもケータイ教室等を行い、正しい使い方を子どもたちだけでなく保護者の方にも伝えていくべきであると思います。

今回いただきました貴重なご意見を受けまして、すべての子どもが楽しいと思える学校の実現を目指して今後も教育活動に取り組んでいきたいです。どうぞ保護者や地域の皆様もご理解ご協力いただきますようよろしくお願いします。

